

ハイライトよねやま 60

(財)ロータリー米山記念奨学会
2005年2月10日発行

1. 寄付金速報 ~下期寄付情報

1月までの寄付金は、前年同期と比べ3.7%減、約4千万円の減少でした。普通寄付金が3.0%減、特別寄付金が4.1%減です。この現状を少しでも改善するために、今月および来月に寄付金増進タスクフォースが開催されます。寄付金減少の現状と原因を分析し、増進方策と今後の奨学事業について協議する予定です。寄付金・表彰制度に関するご意見などございましたら、事務局までお寄せください。2005年もより一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2. 2005-06年度ガバナー・エレクト/米山奨学委員長合同セミナー開催報告

2月3日、東京・品川の高輪プリンスホテルにて、ガバナー・エレクトと次期米山奨学委員長を対象とした合同セミナーが開催されました。昨年まで、ガバナー・エレクトセミナーは6月下旬の理事会・評議員会終了後に実施していましたが、参加者から「時期が遅い」との声が多く、今年は2月初旬に、初めて米山奨学委員長セミナーと合同で実施することとなりました。

【ガバナー・エレクトセミナー】

4グループに分かれてのグループディスカッションでは、米山奨学事業の目的、選考基準、寄付増進の方策など、多岐にわたるテーマが議論されました。発表では、「本来の米山奨学制度の目的からすると、少数精鋭で優秀な学生を選ぶべきではないか」「一カ国に集中するのではなく、より多くの国の学生を支援するよう配慮が必要」「理解促進のための資料は極力シンプルに」「寄付増進には税制の恩典をもっとアピールする」など、さまざまな意見が述べられましたが、現地募集採用型奨学金については、慎重な意見が目立ちました。



【次期米山奨学委員長セミナー】

3名の米山奨学委員長がパネリストとなって、地区での取り組みや現場の工夫が語られました。

山本和雄氏(2660/大阪なにわRC):「選考と学校訪問について」

地区委員全員での大学訪問、選考方法の改革によって“ロータリアンが本当に応援したい奨学生”の採用を実現した事例紹介。

林 和夫氏(2610/富山みらいRC):「前年度個人平均寄付額アップの工夫」

寄付金データなど米山奨学会から送られる情報を活用した実践的な寄付増進への取り組みを紹介。また、クイズ形式の「米山×テスト」など独自の工夫も披露。

藤田銜三氏(2630/岐阜城RC):「奨学生の卓話...反響を生むために」

地区米山奨学委員会が企画した「米山奨学生による二胡コンサート」が大変な人気を博し、卓話の申込みが殺到。ひたむきな姿が感動を呼び、寄付にもつながった理解推進事例を報告。



なお、出席者アンケートでは、ガバナー・エレクト、地区米山奨学委員長ともに、8割近くが「合同開催がよい」との回答でした。本セミナーの報告書は、3月に発行予定です。

3. 米山奨学事業新制度を考える ～ 韓国の大学事情視察訪問記

昨年 12 月 21 日、台湾学友会総会出席（ハイライトよねやま 59 号参照）の帰途を利用し、現在検討中の 2006 年度制度改編の中でも注目度の高い「現地募集採用型奨学金制度」の調査のために、韓国を訪れました。米山奨学会は、台湾・韓国において、現地の米山奨学会学友会と共同で募集・選考を行い、上級研究者を日本に招聘する「SY-A (Alumni : 同窓会) 特別米山奨学金プログラム」を実施しています。韓国の SY-A では、採用がソウルなど大都市に偏っているといった批判もあり、今回は韓国地方都市の現状を確かめたいと、韓国学友会会長の安 熙道さんの協力を得て、江原道・江陵大学を訪問しました。

ソウルから東へ 150 キロ、非武装地帯をはさんだ北朝鮮に最も近い江陵市は、朝鮮半島の歴史と儒学伝統文化の街、豊かな自然に囲まれた観光地です。また、南北分断が続く中、“漢江の奇跡”の発展に取り残された地域でもあります。国立の総合大学である江陵大学では、一昨年に SY-A で宮崎大学に留学した陳 徳姫教授（世話クラブ・延岡東 RC）の出迎えを受け、日本学科の学生約 40 人に米山奨学事業と日本の留学事情についての説明を行いました。



韓国・江陵大学での米山奨学事業説明会

「地方大学に日本留学の情報が少ない」「現在の米山奨学制度では、ほとんどチャンスがない」「儒教文化の中心で育ったわれわれに日本で学ぶ夢をかなえて欲しい」と矢継ぎ早に質問が寄せられ、2 時間の説明会もあっという間に終わりました。学生の輝く目、真剣な質問、礼儀正しい応対、大学キャンパスで久しく感じなかった学生の魂の躍動感、若者の夢と誇りを身近に感じる感動のひと時でした。

SY-A で培ったノウハウを生かし、今後、実施が検討される新しい現地募集採用型奨学金制度。それを通じて構築を試みる“知的コラボレーション”のネットワークは、このような日本の大学（鹿児島・新潟・福井県立大学）と連携している海外の地方大学との協働の中で、根付いていくのかもしれない。（事務局長・宮崎幸雄）

4. 被災した母国を支援するために ～ スリランカ出身の米山奨学生・学友が津波復興支援

昨年 12 月のスマトラ沖地震に伴うインド洋大津波、その甚大な被害に苦しむ母国を支援するために立ち上がった米山奨学生・学友たちがいます。

その中の 1 人、スリランカ出身の米山学友、ナリン・ラトナヤケさん【2002-03 年 / 北海道大学大学院 / 札幌西北 RC】は、札幌の留学生で組織する日本スリランカ交流会の一員として街頭募金に立ち、ラジオ番組で支援を訴えるなど、津波で親を亡くした子どもたちのために活動しています。また、同じくスリランカ出身の米山学友、ナディーカ・エディリシンハさん【2002-04 年 / 流通経済大学 / 龍ヶ崎中央 RC】と、現役奨学生、ジャナカ・ジーワナさんは、世話クラブの龍ヶ崎中央 RC とともに、母国の支援活動を始めています。

津波被害に関する奨学生・学友の活動情報は、3 月初旬に米山奨学会ホームページ（<http://www.rotary-yoneyama.or.jp>）に掲載予定です。

（財）ロータリー米山記念奨学会 編集担当：峯・野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 abc 会館ビル 8 階
Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>